

団体名 南風原町教育委員会 (学校教育課・生涯学習文化課)	連絡先 学校教育課 TEL : 098-889-6181 Eメール : haebedu@town.haebaru.lg.jp 生涯学習文化課 TEL : 098-889-0568 Eメール : H8890568@town.haebaru.lg.jp
---	--

1 実践事項 (特色ある取組) 学校教育部会

タイトル : 「 (1) 読解力の育成を通じた学力向上の推進 」
 「 (2) 温かい学級集団づくり支援 」

2 実践内容

町学力向上推進の目標

「すべての学習の基盤となる『読解力』の育成を通して学力向上を推進する」

※読解力とは、「事実に基づいて書かれている文章（教科書や新聞、説明書など）やグラフ・図表等から、意味や内容を正確に理解する（読み解く力）」

(1) リーディングスキルテスト（以下：RSTと表記）の結果を活かした授業改善の取組

リーディングスキルテストは、「文章に書かれている意味を正確にとらえる力（基礎的な読む力）を測定・診断するツールのこと。 <教育のための科学研究所HPより引用>

本町では、小学校6年生、中学校1・2年生を対象にリーディングスキルテストを実施しているが、テスト結果は、基礎的な読む力（読解力）について、次の6つの視点から分析することができる。なお、6つの視点については、授業改善を推進する視点として押さえる。

※RSTの結果を活かした授業改善を推進する際に押さえておくべき視点(視点を踏まえた授業改善)

① 「文の基本的な構造」を正しく把握する力。(読解力の最も基礎となる力)

☞主語や述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句、接続する語句などを把握する力

② 「代名詞が何を指しているか」を正しく認識する力

☞指示代名詞が指すものや、省略された主語や目的語を把握する力

(これ、それ、あれ、どれ、それら、これら、そのように、このように、など)

③ 与えられた2つの文が同じ意味かどうかを正しく判断する力。語彙力や論理力が必要となる。

☞2つの文の意味が同一かどうかを判定する力。

この力は、自学自習をする際に欠くことができない能力と言われている。

自分の力で答え合わせをすることができるかどうか。(自己採点)

④ 自分が持っている知識と新しく得られた知識から、論理的に判断する力

☞学校で学んだ知識と生活の中で身につけた常識から結論を導くことができるか。

推論の基本となる三段論法の視点で正確に読み解くことができるか。

⑤ 文と図やグラフ等の非言語情報を正しく対応させ読み解くことができる力

☞文章で表現された内容と図や表、グラフなどが対応しているかどうかを見極めることができるか。

例) 社会・・・説明文と地図との関係、説明文と写真・イラストとの関係

説明文とグラフとの関係、説明文と用語解説との関係など

⑥ 文章で表現されている言葉の定義や意味をおさえた上で、新しい語彙と関連づけて使うことができる力。

算数や数学、理科等で使われる言葉の意味や定義を理解し、様々な事象と関連づけて使うことができる力。

☞文章の最小単位となる「単語」(言葉、語彙、教科で使われる用語等)を獲得しているか。

獲得した「単語」(言葉、語彙)の意味を理解しているか。

教科書などに示された単語や文章(定義文)を理解しているか。

獲得している単語や文章を具体的な例に当てはめて使うことができるか。

全国学力・学習状況調査、県到達度調査等の結果やRSTの結果から見えてきた課題を照らし合わせ、課題に対しては、6つの視点を活かした授業改善の推進を図った。

(2) 温かい学級集団づくり支援

南風原町では、令和4年度よりhyper-QUを小学1年生から中学3年生まで実施。

その結果を基に、学級集団づくりの支援を始めた。これは、「読解力育成」に係る授業改善に向けて、基盤となる学級を「学習集団」へと育てることによって、互いに支え合い、教え合い、学び合う児童生徒の育成につながっていくものと捉えている。

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

(1) RSTを活用した授業改善

①読解力育成に向けた公開授業・授業研究会（令和4年5月19日：南風原小学校2年生）

国語 説明文（説明の順序） たんぽぽのひみつを見つけよう

RSTの視点 視点1：代名詞が「何を指しているのか」を正しく認識する力を育てる。

視点2：これまで学んだこと（知識）と本時で新しく得られた知識から、論理的に判断する力を育てる。

視点3：教科書の本文と絵等を対応させ整理することができる力を育てる。

○本時の板書



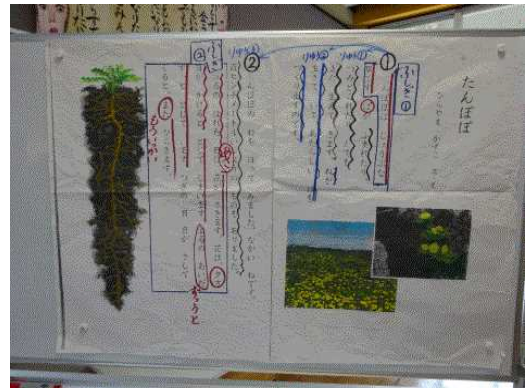
○思考場面

「たんぽぽは、仲間をどのようにして増やしていくのか」増やし方の順序をカードに示し並べ替えながら考えている様子。

※思考段階で、困り感のある児童に対して教師は、これまでの学習過程を振りかえらせたり、時間経過を捉えにくい場合は、教科書に表記されている絵と文を結びつけさせるよう支援する姿が見られた。



○学習過程を掲示することで、子どもたちが思考する場面において学習の支えとなっている。



②RSTの視点に立った授業づくり (教育のための科学研究所 所長 新井紀子 氏)

5年 社会科 国土の気候と地形の特色 日本のさまざまな気候

○教科書の本文から、本時の課題を読み取る。

○読み取った課題は、グラフや絵、地図などで、どう関係づけることで、正しく読み解くことができるか考える。

○読み取った情報から、寒い地域は、どこの町かなどを判断する材料(根拠)とする。



教科書：小学社会5 日本のさまざまな気候22P-23p
教育出版 より引用

※他教科との関連

4年理科：水のゆくえ
冷たいものに水がつくわけと関連付けた指導

5年理科：天気の変化 天気の変化のきまり 雲画像と関連付けた指導

(2) 温かい学級集団づくり支援

①hyper-QUのデータの読み取り、分析、活用方法について

○町内各学校を訪問し、hyper-QUのデータ読み取り、分析・活用方法について校内研修を実施。

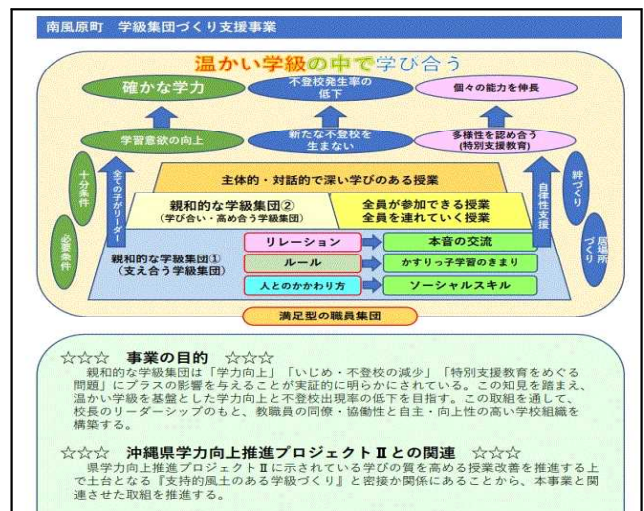
②学級集団づくりコンサルテーション

○hyper-QUのデータをもとに、学級の困り感、今後の対応等について支援を行った。

また、特別な支援を要する児童生徒や個別の配慮が求められる子たちについては、作業療法士を活用した支援と連携し、学級運営についてサポートを行った。

③学級集団づくり支援研修会

○学校現場は、多忙であるが先生方にとっては、学びの場となる支援も必要と捉えている。また、学校運営を支える要となる「ミドルリーダー」の育成も同時に行わなければならないことを踏まえ、今年度は、学級集団づくりを支援できる職員の育成も行った。



学級集団づくり支援研修会 実施要項

南風原町教育委員会

令和4年度より、本町の全小中学校においてhyper-QUテストを実施し、各学校において、より効果的な活用につながるよう、町教委主催による学習会を計画しています。各学校において、hyper-QUを活用した支援を推進できる先生方を推薦して頂きたいと考えています。

- 趣旨：本町で実施しているQ-Uについての講話や演習を通して、データの読み取り方等のスキルを身につけさせるとともに、各学校における学級集団づくりの支援に資する。
- 参加対象：各学校から希望する者（3名程度）
校長より推薦された者
- 学習会の日程

回	日時・場所	内容	備考
1	9月14日(水) 15:45~16:45 役場3F庁議室	○開講式 ○アセスメントとは ○Q-Uの結果(データ)の見方について	
2	9月28日(水) 15:45~16:45 役場3F庁議室	○Q-Uの結果の分析について Q-Uの結果から弱みと強みを探る	
3	10月12日(水) 15:45~16:45 役場3F庁議室	○学級アセスメント(分析・活用) いじめの認知、不登校	
4	10月27日(木) 15:45~16:45 役場3F庁議室	○実態に即した授業づくり 授業改善にデータをどう活かすか	
5	11月9日(水) 15:45~16:45	○実態に即した学級づくり 発達課題を抱えた児童生徒をどう活かすか	

4 成果

(1) RSTの視点に立った授業改善（読解力育成）

- RSTの視点に立った授業改善をどのように行えばよいか悩んでいたが、新井紀子氏から具体的な課題を頂けたこと、その課題に対して、どのような取組を行えばよいかを確認することができた。
- 学校においてRSTデータを活かし、6つの視点に立った取組が始まったことは、児童生徒を中心にした授業改善へつなげていけるととらえている。

(2) 温かい学級集団づくり支援

- 各学校とも、hyper-QUのデータを活かし、学級集団づくりに取り組むことができた。
- 作業療法士の活用については、これまで特別な支援を要する児童生徒や個別対応が必要な子に対する行動観察及びフィードバックであった。学級集団づくりの視点と連携したことにより、学級内において学級集団の中でどう活躍させるかなど、温かい学級づくりの視点に立った取組を行うことができた。

5 課題

(1) RSTの視点に立った授業改善（読解力育成）について

- 読解力育成は、全国学力・学習状況調査や県到達度調査の結果とRSTのデータを分析したところ、以下の課題が見えてきた。
 - ・児童生徒が、文章に書かれている意味を正確に捉えるための「基礎的な読む力」に差が見られること。
 - ・基礎的な読む力を育み、確かな学力の定着に向けた授業改善や宿題・自学自習と関連づけた研究を進めていく必要がある。
- 「基礎的な読む力」を育み確かな学力の定着に向けては、国語科だけでなく全ての教科において必要とされる力である。各教科の特性を踏まえた指導方法や学習方法の研究を進めていく必要がある。
- 「基礎的な読む力」を育むためには、授業だけでなく家庭との連携も必要となる。家庭学習等を充実したものにするためには、家庭で取り組む内容について目的や方法の確認を行い、連携していくことが必要である。

(2) 温かい学級集団づくり支援

- 学級集団づくりは、「意図的」「計画的」な取組が求められる。そのため、年間を見通した学級集団づくり計画を作成し、キャリアステージに合わせた取組、支援が行えるよう体制づくりを図る必要がある。
- 学級集団づくり支援においては、特別な支援を要する児童生徒も在籍していることから、学級担任、学年団職員、管理職だけでなく、町教委指導主事や特別支援教育相談員、作業療法士等が連携しサポートできる体制づくりが必要である。

1 実践事項 (③) 家庭・地域教育部会 タイトル：「 地域と学校の連携 」

2 実践内容

「地域学校協働活動」とは、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子ども達の学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、様々な取り組みを行う事業。本町では学習支援に特化した活動を行っており、平和学習、キャリア教育、郷土学習、クラブ活動などが行われている。地域住民が学習支援ボランティアとして授業に関わることで学校教育の充実を図るだけでなく、自らの経験や知識を活かすことのできる場づくりにもなっている。

【工夫点】

- ・事業周知と広報活動（町広報誌、壁新聞の発行、事業報告書の作成、活動写真展示会、等）
- ・実行委員会、教頭連絡会、平和学習担当者連絡会、ボランティア懇親会の開催
- ・自主研修会企画や、他市町村、関係団体と情報交換等
- ・積極的にオンラインを活用し事前打合せや授業を実施

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）



南風原中・プレゼンテーション講座



南星中・校則検討ワークショップ



南風原小学校・太鼓演奏鑑賞会



津嘉山小・南風原高校郷土文化コースによる地域の伝統と文化



北丘小・新、古タイヤの違いを体感



翔南小・パティシエによる実演

4 成果

- （学校）教職員だけでは成果を挙げにくい学習において、地域の優れた人材を確保し、専門的な知識や技術、指導法を教職員が学ぶ貴重な機会にもなっている。
- （地域）地域の伝統文化が継続的に授業に取り入れられている。
- （事務局）ホームページをリニューアルし、SNSを活用する事で広報活動が充実した。
- （事務局）ボランティア懇親会を再開することができた。
- （コ）教師、講師が協働し授業づくりを行った。
- （コ）県事業や自治体の出前講座・講師派遣事業等の活用。

5 課題

- （事務局）授業内容によっては、講師の高齢化や新たな人材発掘が必要。